

日本哲学会林基金若手研究者研究助成

2016 年度成果報告書

ミシェル・セールの 1980 年代から 1990 年代における第三者 tiers 概念の展開

あがた ゆ い こ
縣 由衣子 (筑波大学人文社会科学研究所博士後期課程)

1、本稿の意図

本稿の目的は、ミシェル・セールの 1980 年代から 1990 年代の著作を通底する問題系としての第三者(tiers)概念を指摘することにある。1970 年代までのセールは、数学的構造概念を中心としたネットワーク理論の構築を中心として論じていたが、1980 年代に差し掛かるに従い、その思想の重点の移動を行なっているように思われる。1969 年に開始された論文集『ヘルメス』の最終巻の刊行は 1980 年だが、それと同年、セールは『パラジット 寄食者の論理 (以下『パラジット』)²』を刊行する。この『パラジット』を皮切りとして 1993 年の『幾何学の起源』³に至るまで、セールの思想の重点は、それまでのネットワーク論におけるコミュニケー

¹ 本報告は 2016 年度日本哲学会林基金若手研究者研究助成による研究成果です。ご配慮に深く感謝申し上げます。

² Serres, Michel, *Le Parasite*, Paris, Grasset, 1980.

³ Serres, Michel, *Les Origines de la géométrie*, Paris, Flammarion, 1993.

ションと輸送の問題から、第三者(tiers)の問題へと移っていくように思われる。

2、第三者概念

では、具体的にこの第三者とは一体どのような概念なのか。セールが念頭に置くのは、排中律(principe du tiers exclu)、つまり排除される第三者の論理である。この第三者が排除されることが何かしらの関係が成立する条件である、というのがセールの主張である⁴。そして、この関係の成立に先立ち、関係を成立させる条件でありながら、関係を妨害するものとして追放される第三者という概念は、しばしば意図的に雑音、寄食者、ジョーカー、デモンなどと言い換えられている。これらの概念の詳細な分類は今後の課題とし、本稿ではまとめて第三者としたい⁵。

3、『パラジット』以前と以後

そして、この第三者概念は、すでに『パラジット』以前のネットワーク論の文脈においても言及されているのではあるが、とはいえ、『パラジット』以降における、セールの思想の軸の第三者概念への移行を特徴付けるのは、第三者による定礎(fondation)の問題である。『パラ

⁴ Cf. Serres, Michel, *Hermès I, la communication*, Paris, Minuit, 1969, p.41. 「対話をするこ
と、それは第三者を措定し、そしてこれを排除しようとすることである。成立したコミュニ
ケーションとは、この排除された第三者のことなのだ。」

⁵ セールにおける寄食者概念を第三者概念へと一般化したものとして捉えている先行研究と
してはハラリ & ベル(1982)があるが、そこでの指摘は『パラジット』以降は1982年の『生
成』(Serres, Michel, *Genèse*, Paris, Grasset, 1982)までにとどまる。

Harari, Josué V., and Bell, David F., *Journal à plusieurs voix, Littérature, Science, Philosophie*,
Baltimore&London, The hopkins university press, pp.9-39.

ジット』以前においては、第三者とはあくまでもネットワーク論でのメッセージの輸送に不可避的に付随する雑音としての位置付けで言及されており、思想の軸はネットワークとコミュニケーションの成立に置かれていたと言える。これに対し、『パラジット』以降では、この第三者を排除すること自体が、ネットワークの組成の起源を形作るものであり、システムの定礎をなしている⁶ということが複数のモデルに関して述べられるのである。言い換えれば、第三者とはネットワークにおいて時間的な不可逆性を印づけるものとも言える⁷。この概念の展開について、例をあげれば、『パラジット』では主客の関係を相対化する間主観的な存在としての寄食者が論じられ、第三者が妨害者でも媒介者でもあることが指摘される。また、『ローマ』では都市の集合体の定礎において第三者の追放と包摂が歴史学的観点から論じられる。これらモデルの中で常にセールが繰り返し指摘するのは、ネットワークが構成するシステムとは定礎としてその背後に追放された第三者の存在によって不可逆的に開始し、またシステムは常にこの第三者の来訪による妨害によって編成を新たにすることによって存続するという共通の論理である。

4、まとめ

⁶ Cf. R Serres, Michel, *Rome Le livre des fondations*, Paris, Grasset, 1983, p.171. 「集団が形成されるためには、(中略) 世界が世界であるためには、そしてそれが最善のものであるためには (中略)、セクストゥスが排除されなくてはならない。排除されるこの第三項とは何者なのか。」

⁷ セールはこの不可逆性を半導体 *semi-conducteur* や整流器 *redresseur* と表現している。Cf. *Rome Le livre des fondations, op.cit.*, p.27.

『パラジット』から『幾何学の起源』を第三者という概念を中心として捉えることによって、現在最も一般的なセール思想の理解であるアクター・ネットワーク理論の先駆者としてのセールとはまた異なった角度から読み直すことができるのではないか、と思われる。今後の課題としては、この第三者概念をセールにおけるカントの超越論的なものの乗り越えとして読むことを試みたい。